

胸部X線検査

胸部X線撮影

主に肺部を目的としたX線検査のことです。

胸の前面を装置(受光面)に押し付け、背中側から撮影します。

この検査では、主に肺の異常(肺癌、気胸、肺炎、肺結核、肺気腫)を発見することができます。その他に、心臓・大動脈・肺動脈や骨の異常、リンパ節腫大、食道ヘルニアなどを発見することができます。

ただし、この検査は発見した異常がどれほどの規模のものか、良性か悪性か、病気の確定については、CT検査、MRI検査、PET検査に劣ります。

『要精密検査』の判定を受けた場合、胸部に何らかの異常があり、それが危険な病気である可能性があるということで、精密検査が必要となります。

検査を受けるにあたって

この検査では撮影時、身体的位置決めなどのため技師が身体に触れます。怪我や腫れ物、四十肩などで触れられたくない場所がある場合は事前にお伝え下さい。

撮影の際、ネックレス、ブラジャー、湿布などを身に着けているとそれらが写りこんでしまいます。画像にそれらの異物が写りこむと病気と判断されたり、本当の病気が隠れたりするため、全て取り外してから検査を受けて下さい。メガネ、時計、ベルトなどの顔、腕、下半身に付けているものは外す必要はありません。

一回の検査での被曝線量は0.1mSv程度とされています。日本人は年間約2.4mSvの自然放射線を浴びていると報告されていますので、病気が発見できるメリットの方が大きいと言えます。御心配な方はお気軽にお申し出下さい。

※妊娠中の方、妊娠の可能性のある方は、胎児への影響を否定することができないため、すべてのX線検査を受けないで下さい。

胸部X線検査にみられる所見

- ・腫瘍（胸膜腫瘍、肺腫瘍、縦隔腫瘍、甲状腺腫瘍）
組織内に過剰に増殖した組織塊が存在している状態。
- ・～影、～陰影
正体不明の影が写っている状態。
- ・胸膜癒着
肺の表面を覆う臓側胸膜と、胸壁・横隔膜・縦隔を覆う壁側胸膜がくっついてしまったもの。
- ・胸膜炎（陳旧性胸膜炎）
肺の表面を覆っている胸膜が炎症を起こしている状態。単独で発症することはほとんどなく、肺炎や肺結核、肺がんなどの肺疾患がもとになって起こる。陳旧性胸膜炎は昔、胸膜炎が起こった跡。
- ・胸水貯留
胸腔内において液体が貯留するもの。原因は様々で悪性腫瘍、結核、心不全、肺炎、胸膜炎などが考えられる。
- ・中葉舌区症候群
慢性の気管支の炎症が持続して、中葉や舌区が縮んでいる状態。咳や痰が持続する。
- ・胸膜プラーク
壁側胸膜（肺の外の膜で胸腔でくっついている薄い膜）に生じる。両側性の不規則な白板上の肥厚。石綿暴露の指標とされる良性病変。
- ・肺線維症
肺胞に繊維組織が増え固く縮んでしまい、ガス交換ができなくなって呼吸困難に陥る状態。
- ・肺気腫
呼吸細気管支と肺胞が拡張し、破壊される疾患。喫煙との関連が強い。

- ・肺炎

肺の炎症性疾患。原因は様々だが、一般的には肺の急性感染症とされている。

- ・間質性肺炎

肺の間質組織を主座とした炎症を起こしている状態。進行すると肺が蜂の巣状になり、呼吸に支障をきたす。

- ・気胸

胸腔内で気体が肺を圧迫し、肺が外気を取り込めなくなった状態。両方の肺で起こった場合、呼吸ができなくなるため、非常に危険。

- ・肺結核（陳旧性肺結核）

結核菌に感染した状態。陳旧性肺結核は過去に感染した結核の跡。結核菌は様々な器官において細胞内寄生を行い、免疫システムはこれを宿主細胞もろとも攻撃する。そのため、広範囲に組織が破壊され放置すれば重篤な症状を起こして高い頻度で死に至る。

- ・肺嚢胞

肺内に嚢胞と呼ばれる、風船のような袋状の空間が生じたもの。これが破れると気胸になる可能性がある。

- ・無気胸

肺が全く膨らまず肺に空気のない状態。

- ・気管支拡張症

気管支が非可逆的に拡張してしまった状態。拡張した部分の浄化能力は低くなり、血管も増殖するため、膿性痰や血痰が破れる。

- ・リンパ節腫大

肺門部にあるリンパ節が腫れている状態。癌やサルコイドーシスの可能性がある。

- ・サルコイドーシス

肺、リンパ節、皮膚、眼、心臓、筋肉など全身諸臓器に乾酪壊死を認めない類上皮細胞肉芽腫が形成される全身性の肉芽腫性疾患。

- ・炎症性癒痕

昔、何らかの炎症を起こしたが、今はその形跡だけが残っている状態。

- ・線維性変化

肺組織の硬化、委縮の起きた状態。

- ・石灰化

肺の中を流れている血管にカルシウム塩が沈着し硬化している状態。

- ・塵肺

粉塵を吸入することによって肺に生じた繊維増殖性変化。咳、痰、息切れが起こる。さらに進行すると呼吸困難、動悸を起こす。また、塵肺になると肺結核などの病気を合併しやすくなる。

- ・心拡大

心臓が通常より大きくなった状態をいい、主に高血圧が原因。心臓の壁が厚くなるのが心肥大。内腔が大きくなるのが心拡大。

- ・右胸心

心臓が身体の右側にある状態。

- ・大動脈蛇行

動脈硬化が進んで血管が硬くなり、本来はしなやかに曲がっている大動脈が部分的に硬くなって融通が利かなくなっている状態。

- ・右大動脈弓

大動脈が本来とは逆の方向に出ている。

- ・奇静脈葉

本来の奇静脈が存在する位置に奇静脈がなく、別の場所を走っている。

- ・骨島

正常の骨皮質と同様の組織が塊となって、骨の中で腫瘤を形成したもの。

- ・食道ヘルニア

胃の上部が横隔膜から飛び出して胸の方に入り込んだ状態。逆流性食道炎を起こしやすくなる。

- ・側彎

脊柱の側方へ曲がり、捻れ、そして前後方向の正常の彎曲が失われた状態。

- ・漏斗胸

胸の真ん中とお腹との境界あたりが陥没しているもの。

胸部X線装置について

当センターの胸部X線装置は全てデジタル撮影装置となっています。

デジタル化のメリット

- ・撮影時に画像が確認できるため、体動やネックレス等による再撮影がその場で可能。
- ・撮影した画像はデータとして保管しているため、フィルムとしてだけでなく、CD-Rなどの小さな記憶媒体でも画像を貸出しできる。
- ・医師の読影の際、拡大や濃度変更など画像解析処理ができるため読影精度向上が可能。

以上のような様々なメリットがあります。